

平成27年2月18日  
REDD推進体制整備に関する研究成果発表会  
REDDプラスの扉を開く！「カギ」となる技術の探求

# REDDプラスのために 森林総合研究所が行ってきたこと

---

松本光朗

研究コーディネータ

REDD研究開発センター長

# なぜREDDプラス？

- 地球温暖化問題
- 森林減少・劣化によるGHGガス排出の削減
- ポジティブインセンティブ
- 熱帯林保全
- 生物多様性
- 地域住民



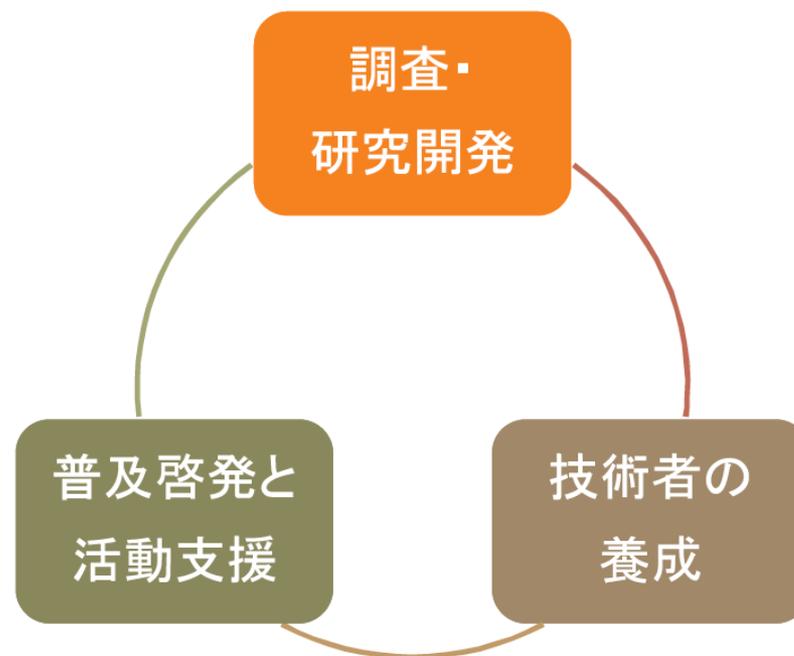
# センター設立まで

- 森林総合研究所
  - 熱帯林の生態学研究
  - リモートセンシング研究
  - 森林によるCO<sub>2</sub>吸排出量推定の研究
  - 国際交渉支援
  
- 気候変動枠組条約での議論・交渉
  - REDDプラスへ
  - リモートセンシングと地上調査によるモニタリング
  - COP15からCOP16へ



# REDD研究開発センター

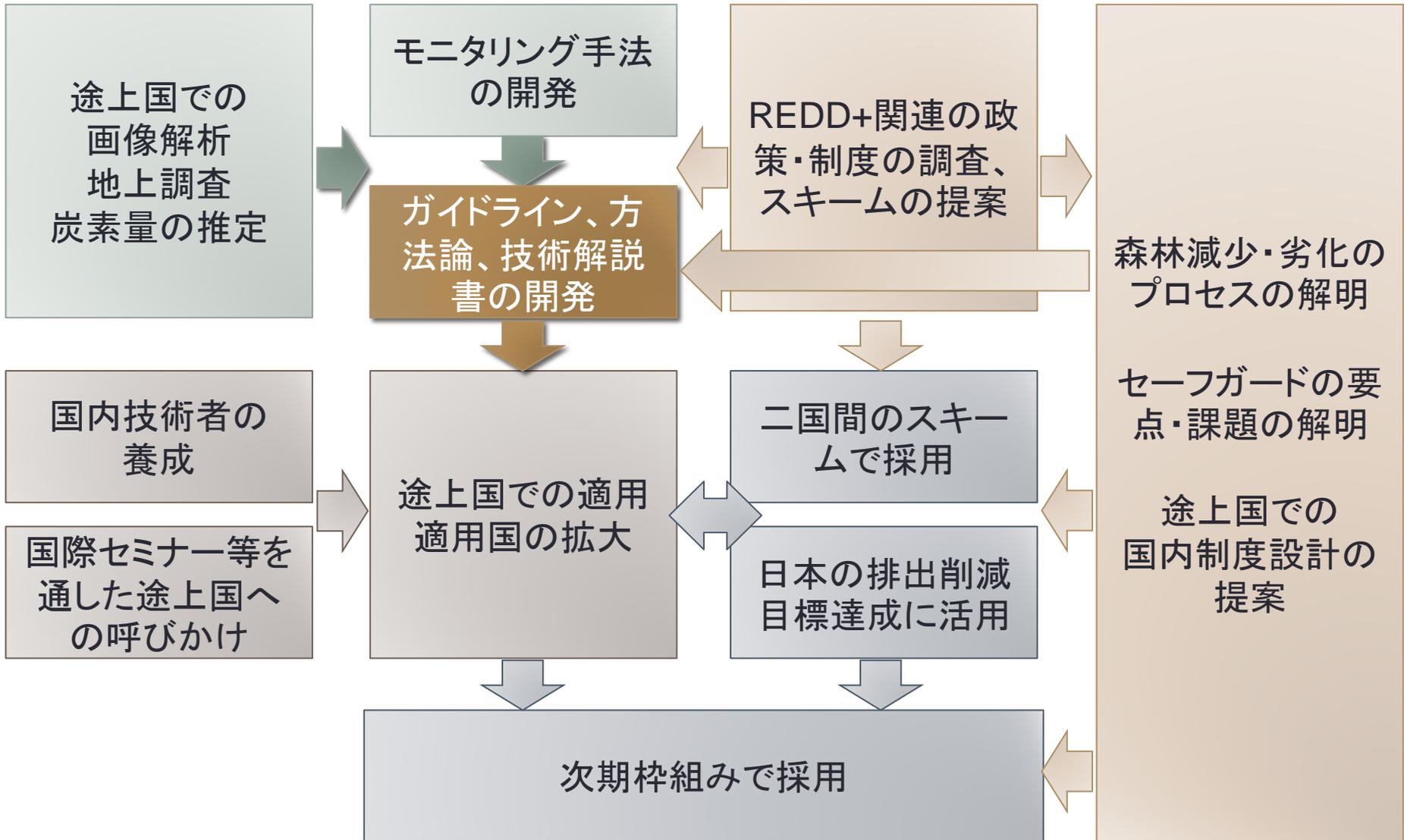
- REDDプラス推進の拠点として2010年に開設



# 何をしてきたのか？

- 森林炭素モニタリング技術の開発
- 制度・政策の分析・提案
- 情報収集・分析・発信
- 国内技術者養成

# 事業・研究の展開 Ver.2 (2011～)

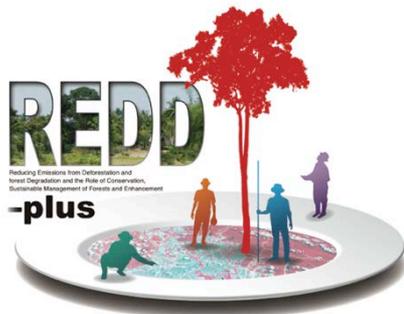




# 何ができたのか？

- 実証に基づくモニタリング技術の開発
- 制度政策、要因、セーフガードの分析
- 国際交渉支援、サイドイベント
- 国際議論参加、IPCC、学会
- 公開セミナー、Web、メルマガ
- 130名の国内技術者養成





## COOKBOOK

HOW TO MEASURE AND MONITOR FOREST CARBON



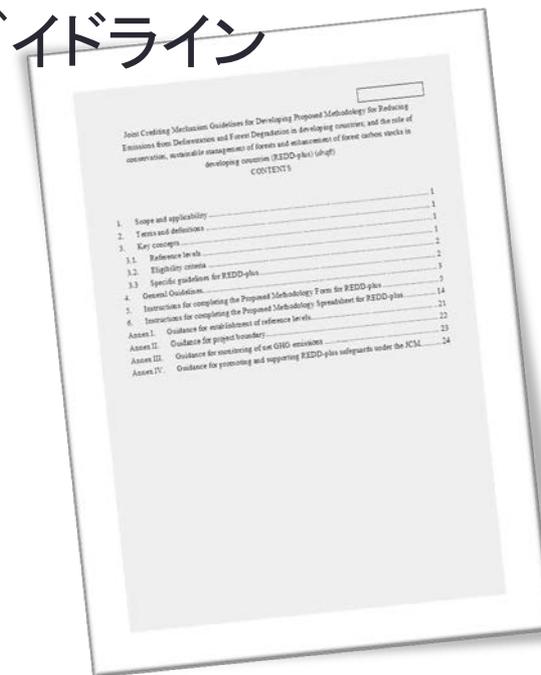
# 何ができたのか？

- REDD-plus Cookbook

- 日本語
- 英語
- スペイン語

- JCM REDDプラス ガイドライン

- 総研版
- 公式版



## REDD プラス実施ガイドライン (案)

独立行政法人森林総合研究所  
REDD 研究開発センター



# 公式版ガイドライン(案)の概要

## Joint Crediting Mechanism Guidelines for Developing Proposed Methodology for REDD-plus

- 目的と対象
  - REDDプラスの5活動による森林での排出削減の達成を目的
  - プロジェクトレベルを対象
- 参照レベル
  - 5点の炭素蓄積量(4期間の変化量)から作成
  - 平均値、回帰式、モデルといった3Tierにより作成
  - 5年以内に再評価
  - 国・準国で参照レベルが設定されていればそれを考慮
- モニタリング
  - リモートセンシングと地上調査による
  - 画像解像度30m以上、森林分類精度80%以上
- 割引率
  - リスクを考慮し割引率として30%(デフォルト値)を適用
  - 他の方法を取る場合はその説明

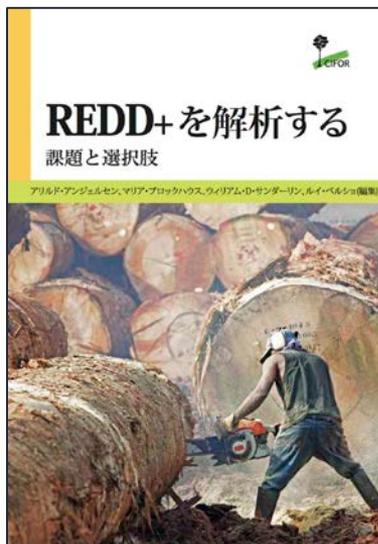
# 何ができたのか？

- 国内コミュニティー
- 国際ネットワーク
- 研究所としての能力開発

森から世界を変える



REDD+



# そして、これから

- 開発技術の適用
- JCMでのREDDプラス
- 問題解決に向けた実践的技術開発
- 2020年からの新枠組みでのREDDプラス
- 途上国独自の努力による森林保全